

新型コロナウイルスと日本語教育 ①

始まったウイルスの脅威

2019年11月末頃、中国の武漢市で原因不明のウイルス性肺炎のニュースが流れ始めていた。しかし、誰もがまだ日本には来ていないと悠長に構えていた。SARSやMERSの時のように日本では感染拡大も起こらないし、大したことはないだろうと思っていたのではないだろうか。しかし、年が明けて時間とともに連日、ダイヤモンドプリンセス号をはじめとする新型コロナウイルス関連のニュースが流れ始め、危機感を感じるようになった。筆者の勤務校でも3月の卒業式は式だけを行い、祝賀会は中止になった。その後、3月下旬に新型コロナウイルス感染によるタレントの志村けんさんの死亡ニュースが出て、多くの人が危機感をさらに強くしたようにも思う。筆者は海外の拠点にいる天理教青年会・婦人会の海外人材派遣生たちと時々、連絡を取っていたが、3月中旬、すでにニューヨークでは外出制限も出ており、学校ではオンライン授業を検討していると知った。また中国大陸で日本語教師をしている人からの情報もあり、海外ではオンライン授業というものが始まっているのだと知った。漠然と、これから日本もそうなるのではないかと感じた。3月8日に天理教語学院の卒業式を終え、その後、慌ただしく天理教語学院も天理教海外部もおやさとやかた東右4棟へ移転した。パリでは例年3月中旬に行われている日仏文化協会の日本語教師養成講座は新型コロナウイルスの影響で中止になったと連絡が入った。

混乱する現場

3月の卒業式を終えてから、連日の新型コロナウイルス関連のニュースを見るたびに、新学期を迎えられるのだろうかとか誰もが考えるようになっていた。4月の入学式までに来日できない留学生もいるようであり、一時帰国していた留学生も再来日できない可能性があり、連日、国の動きを注視するしかなくなってきた。結局、例年4月6日に行われる入学式は一旦13日に延期したが、入学式自体も執り行わず、来日できた留学生だけで全体オリエンテーションという形で行うことになった。日本語科もおやさとふせこみ科もそれぞれわずか9名だけであった。開校以来、こんなに少ない人数は初めてのことであった。しかし、まだ来日の可能性もあって海外で待機している者もあり、その対応をどうするか話し合いが何度も持たれた。遠隔授業を行うにしてもどのような形で行うか、皆、初めてのことで戸惑うばかりだった。来日できる可能性が残されている間はオンライン授業を行うことになった。結局6月末をもって今年度は日本語科定員40名中9名、おやさとふせこみ科が定員20名中10名の留学生が在籍することになった。例年の3分の1の学生数である。

オンライン授業

先が見通せない状況の中、ニューヨークに派遣されている海外人材派遣生から「Zoomでオンラインの授業を4月から始めるので、今、準備や練習をしている」と3月下旬にメールがあった。私がZoomのことを知ったのはこの時が初めてだったが、調べてみると遠隔のTV会議システムのことだった。すぐに18年前にTV会議システムを使って大学院の論文指導を受けていた時の記憶が蘇った。当時、SkypeもLINEもない時代でネッ

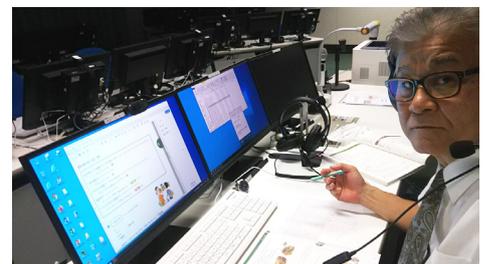
トワークも光ファイバーではなく、ISDN・ADSL回線が主流の時であって、富士通が開発した「Join Meeting」というソフトを使っていた。機能的には授業参加者の映像やWord書類などを表示することができた。遠隔地においてリアルタイムで授業を受けられるという画期的なものだと当時、思っていたが、Zoomも同じものなのだとすぐにはわかった。しかもZoomは誰でも自由にダウンロードすることができ、複雑な設定なども必要なく、さらに機能も数多く備えていることもわかり、今の状況を解決するのに十分役立つと思った。それで早速、校内のメーリングリストにZoomのテストをするので、スマホやパソコンでアクセスして協力をお願いした。しかし、予定した時間に皆が一斉にアクセスすると、ワイワイガヤガヤという感じで、ノイズも多く、これを授業で使っていくには、機能に習熟し、練習もしなければならぬとも感じた。

ネットワークへの負荷

Zoomの機能や使い方について十分活用できるという手応えは得られたが、音声や映像を絶えずやり取りすることになるので、ネットワークへの負荷が心配になり、職場のインターネットの根本であるルーターやL2スイッチなど、機器のパケットの流れも確認して、できるだけ分散して負荷がかからないように設定もやり直した。オンライン授業を進めていく上で機器を整備していくことは大事なことだ。サーバーやネットワークの回線など急に負荷がかかってしまえば、たちまち支障が起こる。天理大学でも、すでに教職員の急なアクセス増加によりつながりにくいなどの障害も起こっていた。

オンライン授業といえば「Zoom」?

新聞でも4月頃から「オンライン授業」という言葉が増え、オンラインといえばZoomを使うものだというような風潮さえ起こっているように感じた。筆者も4月中旬、「基礎日本語A(会話)」の授業をどのように行っていくかと構想を練っていたが、オンライン授業について何か大学側のサポートや指示があるものかと思ひ、それを待っていた。しかし、連絡はなかなか来ず、噂として耳に入ってくることは混乱している様子ばかりであった。結局、オンラインで授業を行うように指示はあったが、具体的なサポート体制などは示されず、授業を担当する教員に任せる形になったようだ。対面授業をすることができない以上、パソコンやネットワークを使い、何とかするしかなく、そんな状況で考えたのは授業動画を作成し、YouTubeを使って配信して、その後Zoomを使ってリアルタイムで学生達にも集まってもらおうというやり方だ。つまり通常、授業で行う説明などは動画にして、都合のいい時間にYouTubeで視聴してもらい、通常の対面授業をしている時間にZoomで集まってもらい、口頭練習や質疑応答などを行うという形式を採用することにした。



オンライン授業前の筆者